

枕石寺縁起・雪中の親鸞



枕石寺縁起・雪中の親鸞 1



枕石寺縁起・雪中の親鸞 2

1999年4月中旬、初夏を思わせるほど暖かな午後、常陸太田市^{おおかど まくらいし}大門町枕石にある元枕石寺^{ちんせきじ}と伝えられている場所を訪ねた。そこは、茨城県の常陸太田市街から栃木県の烏山へと抜ける県道29号線。旧水府村との境になる、大門町の「枕石」というバス停を少し過ぎたところである。道の左側に、注意していないと見逃してしまうような、古く小さな石碑が一段高くなったところにある。その石碑の脇の坂を50メートルほど上がると、竹で作られた囲いがあり、そこに名号が書かれた石灯笼^{いしどうろう}や、襟巻^{えりまき}をした親鸞聖人の小さな石像などがある。地元の人から大切にされているのか、整備され、きれいに掃き清められていた。

あたりにはタンポポの花が咲き乱れ、周囲の山並みも新緑に萌え、ここで起きたという、あの「枕石事件」を思い起こさせないような、のどかさだった。

『枕石事件』

枕石寺は、倉田百三の『出家とその弟子』で知られる「枕石事件」が縁となり、建立された。

それは、親鸞聖人が常陸国、教化の途。折からの吹雪に一夜の宿を求め、日野左衛門という武士の家の門を叩いた。左衛門はその日、借金の取り立てに家々を回っていたが、何とか返済を延ばそうとする人々に腹を立て、やけ酒を飲んでいた。その酔いに乗じ、左衛門は宿を断った。聖人は仕方なく、左衛門宅の軒下で石を枕に一夜を明かすことにした。

左衛門は床についた。すると枕元に観音様が現れ、門前に阿弥陀如来がおられる。いま教化を受けなければ、永劫に苦海から逃れられないと告げたのである。驚いた左衛門は跳び起き、聖人を家の中へ招き教えを請うた。教えを聞き感激した左衛門は、その夜のうちに弟子となり、入西房道円と名付けられ、後に自宅を寺とした。

これが、枕石寺の起こりと伝えられている。

※現在、^{おおかどさんちんせきじ}大門山枕石寺は、常陸太田市上河合にある。